

[ピラミッドだより]

最近の母豚飼養管理あれこれ

下 山 安 (株サンエスブリーディング)

All about SWINE 54, 23-25

<妊娠前期の飼料給与体系について>

多産系種豚が主流になり母豚の飼養管理も以前の常識とは変わりつつあります。

多産系であれば産子数も多く離乳頭数も多くなるでしょうが、生時体重が小さめになりバラツキが生じ死産や哺乳中の損耗は増えているような気がします。また、母乳のみではすべての哺乳子豚を育てることは難しく人工保育技術なども必要となってきました。

産子数増加に伴う生時体重小やバラツキ対策として妊豚の飼料給与体系も変化がみられてきているようです。以前は妊娠前期（交配～35日）の飼料給与量は着床に悪影響があるとされ控えめにし、妊娠後期（妊娠90日又は100日～）に増量するのが一般的でしたが、この方法では平均生時体重は多少増えるものの生時体重のバラツキは改善されないことがあります。最近では妊娠前期に飼料を多めに与えた方が母豚の体力回復に役立ち子宮の回復にも好影響を与え、着床率アップ、胎児の発育にも影響することがわかってきました。生時体重のバラツキが抑えられ健全な子豚が生まれてくれば、離乳頭数や離乳体重の増加にもつながることになります。実際、分娩成績の優秀な生産者に母豚の飼養管理について聴取したところ、そのような管理を実施している農場では産子数が

多く生時体重も大きく死産が少ない傾向にありました。

妊娠前期の飼料給与量は品種、母豚のコンディション、飼料の種類、飼養環境（温度など）によっても異なり、単純に給餌量であらわすことはできませんが、標準で（種豚用飼料TDN72～74）2.5kg～3.0kg/日程度、離乳後の母豚のコンディションが悪い（痩せすぎ）場合には3.5kg/日程度の飼料を与えても問題ないかと思われます。妊娠中期の給餌量については母豚のコンディションが回復していれば維持飼料程度で問題ないと思います。

成績優秀な生産者とお話していて共通している点がもう一つあります。市販されている飼料にミネラルやビタミン類などを別途添加することを必須であると考えていることです。また、酸化ストレスを緩和する抗酸化物質を添加することも初期の胎児の発育に影響があり、生時体重のバラツキ防止や産子数増加に作用するというような情報もあります。添加剤の選択については生産者によりノウハウがあるようなので詳細はわかりません。

多産系ではありませんがサンエス種豚ユーザーのなかでも総産子数13.0頭以上で生時体重も大きく死産も0.3頭以内という管理をしている生産者もあり、先に述べたような飼養管理を徹底して

いる農場でした。妊娠豚も個体管理が重要と感じました。

<繁殖舎でのLED照明の利用と効果>

今やLED照明による繁殖成績改善はよく知られている技術となっています。サンエス種豚ユーザーの農場でも2018年7月からLED照明を交配舎に取り付けて経過を見ていますが、若干の成果を得ているので報告いたします。

LED照明の目的は離乳母豚の発情（排卵）の同期化によるAI注入回数削減、受胎率・産子数の向上です。

2018年の夏は猛暑でした。特に8月以降は暑い日が続き関東地方を中心に夏場の種付けは軒並み成績を下げたところも少なくなかったと思います。そんな中LED照明を導入した当農場では、夏場交配の分娩率が88%と例年（80%前半）に比べ分娩率が安定したことで、昨年一年間の成績と比較しても2017年の89.6%に対して2018年は



離乳母豚ストール
 ストール3つにLED照明1台設置
 朝5:00～夜20:00 タイマーにより点燈



LED照明の高さは床から約1.8m
 国産 光の三原色を利用したもの使用



空胎豚を発見したら、直ちにLED照明下に移動し収容する。

93.2%と年間分娩率の底上げにつながりました。また、離乳母豚の発情再帰日数が4, 5日目に集中し再帰日数が短縮されたこと、再交配母豚の受胎率が80%以上と良好であったことなど、いい結果を得られています。これらの結果はLED照明によりLHサージが促進されて排卵が早期に同期化したものと考えられます。もしかすると夏場の離乳母豚や空胎豚などの再交配母豚への無駄なホルモン剤投与も最小限に抑えることができるかもしれません。

産子数については7月、8月の最も夏場の影響を受ける時期の交配でもかかわらず、若干増加

傾向と、特に影響はなかったようです。今後1年間のデータが揃った時点で判断していきたいと考えています。

AIの注入回数についてはLEDを使用することで注入回数をオール2回にすることを検討しましたが、品種の違いや母豚のコンディションも影響することを考慮し、離乳後の許容開始後3日目でも強い許容を示した場合のみ3回注入を実施し、それ以外は2回注入としました。現在はオール3回注入から2回注入の割合が増えていることから、注入回数の削減につながっているといえます。